

(品目別需給編)

1 小麦

(1)国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2020/21 年度

生産量 前年度比 前月比

- ・ロシア等で上方修正も、中国、アルゼンチン等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

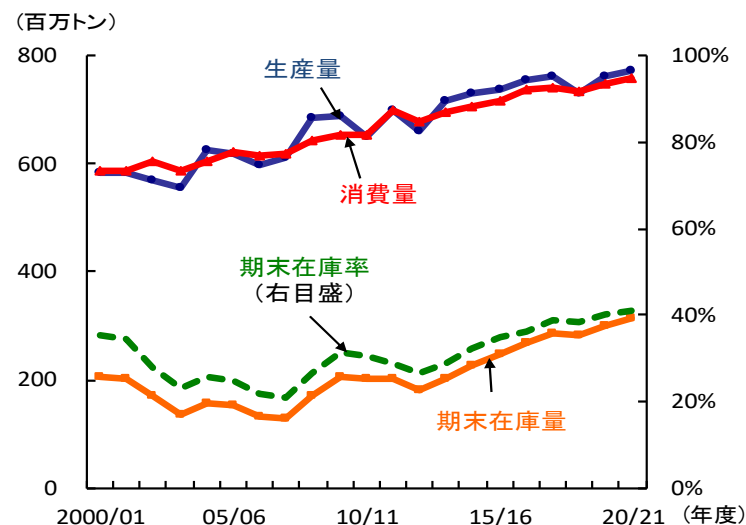
消費量 前年度比 前月比

- ・中国、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

- ・ロシア、アルゼンチン等で下方修正も、カナダ、EU 等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み

期末在庫量 前年度比 前月比



資料：「PS&D」（2021. 1. 12）をもとに農林水産省で作成

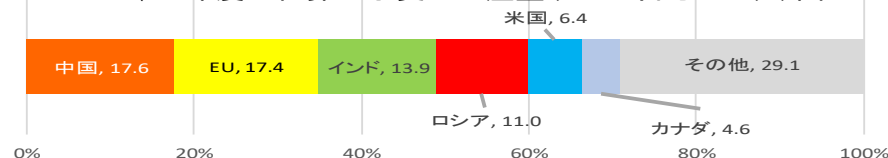
◎世界の小麦需給

（単位：百万トン）

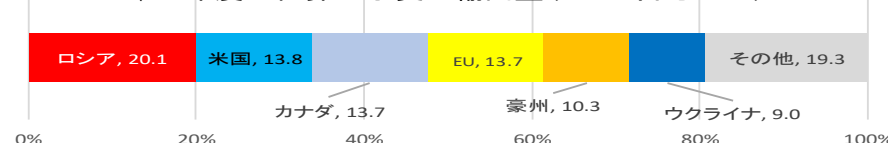
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	730.9	763.9	772.6	▲ 1.0	1.1
消 費 量	734.7	747.0	759.5	1.8	1.7
うち飼料用	139.2	139.0	142.4	1.3	2.5
輸 出 量	173.7	191.5	193.8	0.1	1.2
輸 入 量	171.2	185.3	189.3	0.1	2.2
期末在庫量	283.2	300.1	313.2	▲ 3.3	4.4
期末在庫率	38.5%	40.2%	41.2%	▲ 0.5	1.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (12 January 2021)

○ 2020/21年度の世界の小麦の生産量（772.6百万トン）（単位：％）



○ 2020/21年度の世界の小麦の輸出量（193.8百万トン）



○ 2020/21年度の世界の小麦の輸入量（189.3百万トン）



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比5.5%減の49.7百万トンの見込み。品種別には、冬小麦は対前年度比11.1%減の31.9百万トン、春小麦は同4.4%増の15.9百万トン、デュラム小麦は同27.5%増の1.9百万トンの見込み。

USDA「Winter Wheat and Canola Seedings」(2021.1.12)によれば、2021/22年度の冬小麦の作付面積は、12.95百万ヘクタールと前年度に比べ5%の増加の見込みとなったものの、史上4番目に低い水準。品種別の作付面積は、HRW(ハード・レッド・ウインター)は前年度比4%増の9.02百万ヘクタールで、カンザス州、モンタナ州等で増加したが、ネブラスカ州では史上最低となった。SRW(ソフト・レッド・ウインター)は、前年度に比べ12%増加の2.52百万ヘクタール。インディアナ州等で増加したもののオハイオ州では減少の幅が大きい。WW(ホワイト・ウインター)は、前年度に比べ約1%減少した。作付は2020年9月初旬から開始され、同年11月半ばにはほぼ終了した。HRWの主産地であるカンザス州等では、発芽時には乾燥天候に見舞われたが、発芽進捗率は5年平均を上回った。

【貿易情報・その他】USDA「Grain World Market and Trade」(2021.1.12)によれば、米国産主要品種の国際価格は12月より、ロシア産小麦の輸出制限やアルゼンチンのとうもろこしの輸出停止措置に下支えされながら、トウモロコシと大豆の価格上昇に伴い上昇した。2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、26.8百万トンの見込み。2020年12月の輸出先国は、中国(21.2%)、フィリピン(15.1%)、メキシコ(12.5%)の順。また、2020年1月から12月の累計ではフィリピン(13.0%)、メキシコ(11.3%)、日本(10.1%)の順。

また、期末在庫量は、飼料用、種子用の需要増加から、0.7百万トン下方修正され、22.8百万トンと対前年度比18.7%減となり、2014/15年度以降最低の見込み。

小麦－米国（冬小麦が全体の7割、春小麦は3割）

(単位：百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	51.3	52.6	49.7	-	▲ 5.5
消費量	30.0	30.6	31.4	0.7	2.7
うち飼料用	2.4	2.8	3.4	0.7	23.6
輸 出 量	25.5	26.3	26.8	-	2.0
輸 入 量	3.7	2.9	3.3	-	14.3
期末在庫量	29.4	28.0	22.8	▲ 0.7	▲ 18.7
期末在庫率	53.0%	49.2%	39.1%	▲ 1.7	▲ 10.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.03	15.13	14.87	-	▲ 1.7
単収(t/ha)	3.20	3.47	3.34	-	▲ 3.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(12 January 2021)

表 米国産冬小麦の作付面積の推移

(百万 ha)

2018/19年度	2019/20年度	2020/21年度	2021/22年度
13.17	12.74	12.31	12.95

表 2021/22年度の品種別作付面積

(百万 ha)

HRW	SRW	WW	計
9.02	2.52	1.41	12.95

資料：USDA「Winter Wheat and Canola Seedings」(2021.1.12)をもとに農林水産省

表 米国の小麦輸出先国別輸出量(輸出検証高)

(万トン)

2020年12月			2020年1月～12月		
国名	検証高	シェア(%)	国名	累積検証高	シェア(%)
中国	32.6	21.2	フィリピン	329.8	13.0
フィリピン	23.2	15.1	メキシコ	287.3	11.3
メキシコ	19.2	12.5	日本	255.6	10.1
韓国	14.0	9.1	中国	210.3	8.3
イエメン	10.9	7.1	韓国	140.2	5.5
その他	54.0	35.1	その他	1311.9	51.7
合計	153.9	100.0	合計	2,535.2	100.0

注1. 12月の輸出検証高は、12月10、17、24、31日の合計値

注2. 累積輸出検証高は、2020年1月2日～12月31日の合計

資料：USDA Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals (2021年1月15日)より作成。

< カナダ >

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook For Principal Field Crops」(2020.12.18)によれば、2020/21 年度の生産量は、単収と収穫面積の増加により、前年度より 7.7%増加の 35.2 百万トンの見込み。主要生産州の生産量は、カナダ統計局(2020.12.3)によれば、サスカチュワン州は前年度に比べ 4.1%増加の 16.0 百万トン、アルバータ州は前年度に比べ 7.6%増加の 11.0 百万トン、マニトバ州は前年度に比べ 4.4%増加の 5.3 百万トンの見込み。

なお、USDA によれば、2020/21 年度の前月予測からの変更はなく、対前年度比 7.7%増の 35.2 百万トンと、2013/14 年度以来の豊作となる見込み。

【貿易情報・その他】USDA「Grain World Markets and Trade」(2021.1.12)によれば、2021 年 1 月 7 日時点の輸出価格は、ロシアの小麦輸出への関税の賦課や大豆やトウモロコシの国際価格の上昇から、12 月 5 日時点の 265 ドル/トンから 281 ドル/トンに上昇した。

また、2020/21 年度の輸出量は、好調な中国向け輸出から、前月予測から 0.5 百万トン上方修正され、対前年度比 7.6%増の 26.5 百万トンの見込み。中国海関統計(2020.12.25)によれば、カナダは 2020 年(1 月から 11 月)累計で中国の最大の小麦輸入先国となっている。

期末在庫量は前月予測に比べ 0.5 百万トン下方修正され 5.0 百万トンとなる見込み。2020/21 年度は豊作となるものの、輸出量が増加するため、前年度から 8.5%減少し、2007/08 年度に次ぐ史上第 2 番目の低水準となる見込み。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2020/21 年度(2020 年 8 月～2021 年 7 月)の 8 月から 11 月までの普通小麦の輸出量は 671.6 万トンで、国別では、中国(86.6 万トン)、インドネシア(76.5 万トン)、ペルー(62.9 万トン)、日本(61.0 万トン)の順。また、同期間のデュラム小麦の輸出量は 188.5 万トンで、イタリア(74.5 万トン)、モロッコ(42.0 万トン)、ベルギー(10.3 万トン)の順である。

小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	32.4	32.7	35.2 (35.2)	-	7.7
消 費 量	9.2	9.3	9.6 (9.0)	-	3.7
うち飼料用	4.2	4.2	4.4 (4.4)	-	5.8
輸 出 量	24.4	24.6	26.5 (25.0)	0.5	7.6
輸 入 量	0.5	0.7	0.5 (0.1)	-	▲ 33.8
期末在庫量	6.0	5.5	5.0 (6.8)	▲ 0.5	▲ 8.5
期末在庫率	18.0%	16.2%	13.9% (20.0%)	▲ 1.6	▲ 2.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.88	9.66	10.02 (10.02)	-	3.7
単収(t/ha)	3.27	3.38	3.51 (3.51)	-	3.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2021)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(18 December 2020)

表 カナダ産普通小麦及びデュラム小麦の輸出相手国(輸出検証高、シェア)
2020/21年度(2020年8月～2021年7月)の8月～11月

	普通小麦			デュラム小麦		
	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)
1	中国	86.6	12.9	イタリア	74.5	39.5
2	インドネシア	76.5	11.4	モロッコ	42.0	22.3
3	ペルー	62.9	9.4	ベルギー	10.3	5.5
4	日本	61.0	9.1	チュニジア	10.2	5.4
5	ナイジェリア	45.8	6.8	トルコ	6.2	3.3
6	その他	338.8	50.4	その他	45.3	24.0
計		671.6	100.0	計	188.5	100.0

注1: Canadian Grain Commissionが認可したエレベーターから輸出された小麦(Licensed)のみのデータ。

注2 普通小麦の品種はNO.1-3 Canada Western Red Spring No.1 Canada Western Red Winter

No.2 Canada Eastern Red Spring No.2 Canada Eastern Oter, デュラムは Canada Western Amber Durum Others

資料: Canadian Grain Commission「Export of Canadian Grain and Wheat Flour」をもとに作成。

< 豪州 >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、2年連続の干ばつから回復し対前年度比97.4%増の30.0百万トンとなる見込み。一方、豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Crop Report」(2020.12.1)によれば、同年度の生産量は前年度に比べ105.5%増加し、史上2番目となる31.2百万トンの見込み。主要生産州別の生産量は、WA州で前年度比41.0%増の8.2百万トン、NSW州で史上最高の12.2百万トン、SA州で同53%増の4.9百万トン。なお、WA州穀物協会(GIWA)「Crop Report」(2020.12.18)によれば、WA州の生産量は8.9百万トンで、品質も良好の見込み。

【貿易情報・その他】USDA「Grain World Markets and Trade」(2021.1.12)によれば、ロシアの輸出制限に伴う輸出量の減少から東南アジアからの輸入需要が増加したため、豪州の輸出価格は12月5日時点の253ドル/トンから、274ドル/トン(1月7日時点)に上昇した。

また、輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比118.8%増の20.0百万トンとなる見込み。また、ABARES「Agricultural commodities」(2020.12.7)によれば、2020/21年度の輸出量は、前年度の倍以上の21百万トンとなる見込み。前年より生育条件に恵まれたことによる生産量の増加や、飼料用需要が減少したことで、国内価格が低下し、輸出量が増加する見込み。

アセアン諸国の中で年間10百万トンを超える小麦輸入国のインドネシアの輸入量シェアで2017年に44.6%(インドネシア統計局)を占めていた豪州は生産量の減少で主要輸出先であった東南アジア市場の輸出シェアを黒海諸国等に奪われ、2018年、2019年のシェアを22.6%、8.3%と低下させていたものの、回復が期待されている。

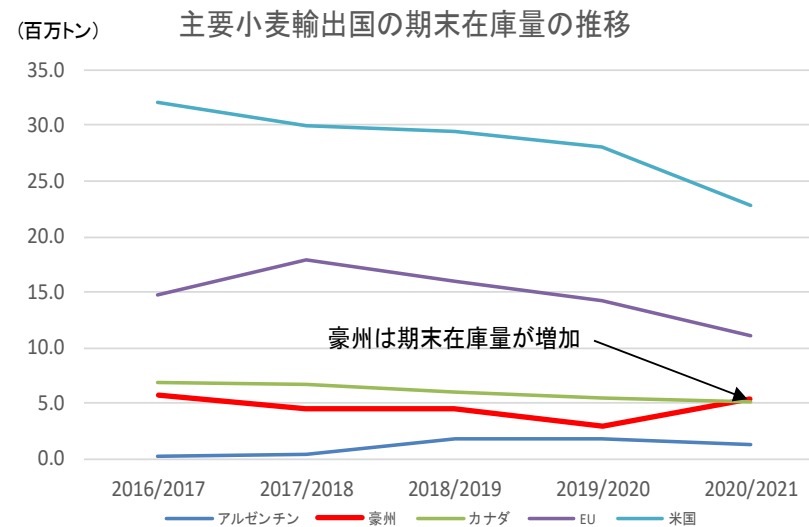
USDAによれば、期末在庫量は、前月に比べ1.0百万トン下方修正され、5.4百万トンの見込み。EU、米国、カナダ等の主要輸出国の期末在庫量が前年度に比べ減少する一方で、豪州の期末在庫量は前年度に比べ86.2%増加する見込み。

小麦－豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	17.6	15.2	30.0 (29.3)	-	97.4
消費量	9.2	8.5	8.0 (7.8)	-	▲ 5.9
うち飼料用	5.7	5.0	4.5 (4.2)	-	▲ 10.0
輸 出 量	9.0	9.1	20.0 (19.4)	-	118.8
輸 入 量	0.5	0.9	0.5 (0.3)	-	▲ 43.8
期末在庫量	4.4	2.9	5.4 (5.9)	▲ 1.0	86.2
期末在庫率	24.4%	16.4%	19.3% (21.6%)	▲ 3.6	2.8

(参考)
 収穫面積(百万ha)※ 10.40 10.20 13.00 (13.0)
 単収(t/ha) 1.69 1.49 2.31 (2.40)
 資料:USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
 「World Agricultural Production」(12 January 2021)
 IGC 「Grain Market Report」(14 January 2021)



資料:USDA「PS&D」(2021.1.12)をもとに農林水産省で作成

(※)NSW州: ニューサウスウェールズ州 WA州: ウェスタンオーストラリア州 QLD州: クイーンズランド州 SA州: サウスオーストラリア州

< EU >

【生育・生産状況】EU 委員会「EU Cereals Production Area and Yield」(2020.12.17)によれば、2020/21 年度の生産量(EU27)は、前月予測から 0.2 百万トン上方修正され 124.3 百万トンの見込み。品種別には、普通小麦は、ハンガリー等で上方修正されたことから、前月予測から 0.3 百万トン上方修正され 117.0 百万トン、デュラム小麦は、ギリシャ等で下方修正されたことから、前月予測から 0.1 百万トン下方修正され 7.3 百万トンの見込み。また、AMIS「Market Database Supply and Demand Overview」(2020.12.4)によれば、英国の生産量は 10.1 百万トンの見込み。

各国の小麦の品質評価は、フランスアグリメールによれば、12 月 4 日現在、フランス産は、「優良から良」が 96%と、前年度(73%)を上回っており、英国農業園芸開発公社(AHDB)によれば、英国産も「優良から良」が 57%と、前年度(15%)を大きく上回っている。なお、USDA によれば、2020/21 年度の生産量(EU27+英国)は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 12.1%減の 135.8 百万トンの見込み。

USDA によれば、2021/22 年度の生育状況は、欧州南部を除き、小麦は休眠期に入っている。土壌水分量は断続的な降雨により欧州全体で十分に確保されている。気温はドイツでは平年より高い状態が続き、フランスでは 12 月下旬から平年を下回ったものの、冬枯れの懸念はない。

【貿易情報・その他】USDA「Grain:World Markets and Trade」(2021.1.12)によれば、EU の輸出価格はロシアの輸出税の導入や大豆、とうもろこしの国際価格の上昇により、2020 年 12 月 5 日時点の 257 ドル/トンから 276 ドル/トン(2021 年 1 月 7 日現在)へ上昇した。2020/21 年度の輸出量は、ロシアの輸出量の下方修正に伴い、前月予測から 0.5 百万トン上方修正されたものの、対前年度比 31.0%減の 26.5 百万トンの見込み。2020 年 10 月の EU(27 ヶ国)の普通小麦の輸出先国は、アルジェリア(24.5%)、中国(16.4%)、サウジアラビア(11.2%)。また、デュラム小麦の輸出先国はアルジェリア(21.2%)、コートジボワール(19.6%)、チュニジア(10.0%)の順。

小麦－EU (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	136.6	154.5	135.8 (123.0)	-	▲ 12.1
消 費 量	121.1	122.5	118.5 (104.4)	-	▲ 3.3
うち飼料用	51.5	52.5	49.0 (41.0)	-	▲ 6.7
輸 出 量	23.3	38.4	26.5 (26.2)	0.5	▲ 31.0
輸 入 量	5.8	4.8	6.0 (6.4)	-	25.0
期末在庫量	15.9	14.3	11.1 (10.6)	▲ 0.5	▲ 22.4
期末在庫率	11.0%	8.9%	7.7% (8.1%)	▲ 0.4	▲ 1.2

(参考)

収穫面積(百万ha)	25.52	26.12	24.61 (22.76)	-	▲ 5.8
単収(t/ha)	5.35	5.91	5.52 (5.40)	-	▲ 6.6

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
USDA 「PS&D」(10 December 2020) 表内のデータはEU27+英国
IGC 「Grain Market Report」(14 January 2021) ()内はEU27ヶ国のデータ

EUの普通小麦輸出先国(10月)

	2019年			2020年		
	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
1	中国	37.21	14.6%	アルジェリア	58.68	24.5%
2	アルジェリア	27.17	10.6%	中国	39.14	16.4%
3	モロッコ	26.26	10.3%	サウジアラビア	26.68	11.2%
4	サウジアラビア	23.63	9.3%	モロッコ	19.57	8.2%
5	ケニア	17.54	6.9%	ナイジェリア	10.04	4.2%
6	タイ	12.85	5.0%	トルコ	9.61	4.0%
	その他	110.68	43.3%	その他	75.39	31.5%
	総計	255.36	100%	総計	239.10	100%

EUのデュラム小麦輸出先国(10月)

	2019年			2020年		
	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
1	モロッコ	1.83	23.3%	アルジェリア	0.84	21.2%
2	マリ	1.33	17.0%	コートジボワール	0.78	19.6%
3	アラブ首長国連邦	0.86	10.9%	チュニジア	0.40	10.0%
4	モータリニア	0.80	10.2%	サウジアラビア	0.33	8.3%
5	トルコ	0.71	9.0%	マリ	0.30	7.6%
6	コートジボワール	0.70	8.8%	セネガル	0.23	5.7%
	その他	1.64	20.8%	その他	1.10	27.6%
	総計	7.87	100%	総計	3.98	100%

(EC(欧州委員会), Cereals exports and imports (COMEXT) (2020.12.16)をもとに農林水産省で作成)

< 中国 >

【生育・生産状況】中国糧油情報センター(2021.1.6)によれば、2020/21 年度の小麦の生産量は、前月予測から 0.2 百万トン上方修正され、対前年度比 0.5%増の 134.2 百万トン。品種別には、冬小麦は作付面積が増加し単収が上昇したことから、前月予測から 0.2 百万トン上方修正され 126.8 百万トン、春小麦は前月予測からの変更はなく 7.4 百万トンの見込み。

中国気象台(2021. 1. 6)によれば、2021/22年度の冬小麦の生育状況は、山西省、河北省、安徽省等の全国の大部分の生産地では休眠期に入っており、中国南部の四川省、貴州省等では大部分が分げつ期に入っている。12月の気温は前年に比べやや低いものの、日照時間も平年並みで土壌水分量も適宜であり、冬枯れの懸念はない。

全国の作柄は、一、二類苗の比率がそれぞれ20%、79%と、前年度同期(21%、79%)並となっている。

【貿易情報・その他】中国農産品供需形勢分析月報(12月)によれば、国内市場への供給が充足しており、製粉企業の小麦の買い付けペースが落ち着いていることから、国内の小麦価格は小幅に下落している。

USDA によれば、消費量は前月予測に比べ 1.0 百万トン上方修正され 135.0 百万トンの見込み。中国国内では、供給の逼迫でとうもろこし価格が上昇しているが、中国政府は旧穀となった国家備蓄在庫を競売入札で解消を図っているため、小麦価格が相対的に安価となり、飼料加工業者はとうもろこしの代わりに小麦を調達している。

また、輸入量は前月予測から 0.5 百万トン上方修正され、前年度比 67.3%増加の 9.0 百万トンと 1995/96 年度(12.5 百万トン)以降最高の見込み。

中国海関統計(2020.12.25)によれば、2020 年 1 月から 11 月までの小麦の輸入量は、前年同期(273.8 万トン)に比べ 2.7 倍の 727.6 万トン。2020 年の輸入先国はカナダ(同 29.2%)、フランス(同 27.6%)、米国(同 20.3%)の順である。2020 年の輸入量を前年同期と比較すると、2019 年は主にカナダから輸入(シェア: 59.2%)していたが、2020 年はフランス、米国、豪州がシェアを伸ばしている。

小麦—中国(冬小麦を主に栽培)

(単位: 百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	131.4	133.6	134.3 (135.0)	▲ 1.8	0.5
消 費 量	125.0	126.0	135.0 (132.0)	1.0	7.1
うち飼料用	20.0	19.0	25.0 (21.0)	1.0	31.6
輸 出 量	1.0	1.1	1.0 (1.3)	-	▲ 4.8
輸 入 量	3.2	5.4	9.0 (7.9)	0.5	67.3
期末在庫量	139.8	151.7	158.9 (139.8)	▲ 2.3	4.8
期末在庫率	110.9%	119.4%	116.9% (104.9%)	▲ 2.5	▲ 2.5

(参考)

収穫面積(百万ha)	24.27	23.73	23.38 (23.8)	▲ 0.62	▲ 1.5
単収(t/ha)	5.42	5.63	5.74 (5.45)	0.07	2.0

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2021)
IGC 「Grain Market Report」(14 January 2021)

表 中国の小麦輸入量、輸入先国シェアの推移 (2019年1月～11月、2020年1月～11月)

	2019年1月～2019年11月			2020年1月～2020年11月		
	国名	輸入量 (万トン)	輸入量シェア (%)		輸入量 (万トン)	輸入量シェア (%)
1	カナダ	162.2	59.2	カナダ	212.2	29.2
2	カザフスタン	37.2	13.6	フランス	200.6	27.6
3	フランス	30.7	11.2	米国	148.0	20.3
4	豪州	16.4	6.0	豪州	108.2	14.9
5	リトアニア	13.3	4.8	リトアニア	33.3	4.6
6	その他	14.1	5.2	その他	25.3	3.5
	計	273.8	100.0	計	727.6	100.0

出典: 中国海関統計(2020.12.25)をもとに農林水産省で作成

< ロシア >

【生育・生産状況】ロシア農業省によれば、2020/21 年度の冬小麦及び春小麦の収穫量(品質調整前)は、85.9 百万トン(12 月 28 日時点)の見込み。USDA によれば、生産量は、前月予測から 1.3 百万トン上方修正され 85.3 百万トンの見込み。そのうち、冬小麦は 59.8 百万トン、春小麦は 25.5 百万トン。

ロシア農業省によれば、2021/22 年度の冬小麦を含む穀物の播種面積は、12 月 10 日現在、予定面積(19.18 百万ヘクタール)の 100.6%の 19.30 百万ヘクタールである。

2020 年 12 月は、ロシア・ヨーロッパ地域では、一部で気温の低下時に、スノーカバーが少なく土壌温度が低下したため、その影響が懸念されている。ロシア・アジア地域では、大部分の圃場はスノーカバーに覆われた。

【貿易情報・その他】ロシア連邦統計局によれば、2020 年 12 月のロシアの消費者物価指数は、前年同期を 100 とすると、パン類が 105.4、穀粒及び豆類が 120.6、パスタが 108.4 と上昇している。また、ロシア国内の 2020 年 12 月 1 日現在の小麦の在庫量は、前年同日比で 11%増の 27.2 百万トンと高水準であったが、ロシア南部の北カフカス連邦管区では同 26%減、シベリア連邦管区で 14%減であり、主要産地であるロシア南部ではここ 5 年間で最低の水準である。

USDA によれば、2020/21 年度の輸出量は、小麦の輸出枠の設定と輸出関税の賦課により、前月から 1.0 百万トン下方修正されたものの、対前年度比 13.1%増の 39.0 百万トンと世界第 1 位の見込み。

ロシア政府は、2021 年 2 月 15 日～6 月 30 日まで小麦を含む穀物の輸出枠を 1,750 万トンに設定。また、同枠内の小麦輸出に対して 25 ユーロ/トン、枠外に対しては 50% (但し、最低 100 ユーロ/トン)の輸出税の賦課を決定(2020 年 12 月)。さらに、3 月 1 日から小麦の枠内輸出税の 25 ユーロ/トンから 50 ユーロ/トンへの引上げが決定された(1 月 23 日)。USDA によれば、この輸出制限により輸入先国をエジプトはウクライナ産とルーマニア産に、バングラデシュはインド産にシフトすると見られる。

小麦ーロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培) (単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、() は IGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	71.7	73.6	85.3	(83.5)	1.3	15.9
消費量	40.5	40.0	41.5	(42.9)	0.5	3.8
うち飼料用	18.0	17.0	18.0	(18.7)	-	5.9
輸出量	35.9	34.5	39.0	(38.9)	▲ 1.0	13.1
輸入量	0.5	0.3	0.5	(0.3)	-	51.5
期末在庫量	7.8	7.2	12.5	(11.0)	1.8	73.3
期末在庫率	10.2%	9.7%	15.6%	(13.4%)	2.3	5.9
(参考)						
収穫面積(百万ha)	26.34	27.31	28.60	(28.6)	-	4.7
単収(t/ha)	2.72	2.70	2.98	(2.95)	0.04	10.4

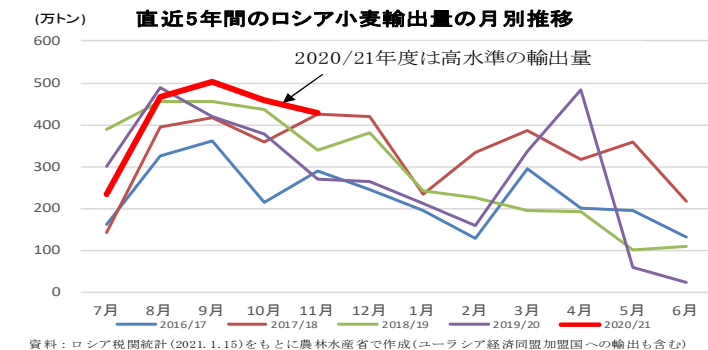
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2021)
IGC 「Grain Market Report」(14 January 2021)

表 ロシアの小麦輸出先国(2020年11月、2020年7月～2020年11月)

	2020年11月			2020年7月～2020年11月		
	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
1	トルコ	88.5	20.6	エジプト	418.1	20.0
2	エジプト	87.0	20.3	トルコ	394.1	18.9
3	パキスタン	59.4	13.8	バングラデシュ	131.7	6.3
4	バングラデシュ	23.0	5.4	パキスタン	90.5	4.3
5	スーダン	18.9	4.4	アゼルバイジャン	81.0	3.9
6	その他	152.3	35.5	その他	972.2	46.6
計		429.0	100.0		2087.6	100.0

(注)2020/21年度は、2020年7月から2021年6月

資料:ロシア税関統計をもとに農林水産省で作成



2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2020/21 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

- ・米国、アルゼンチン等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

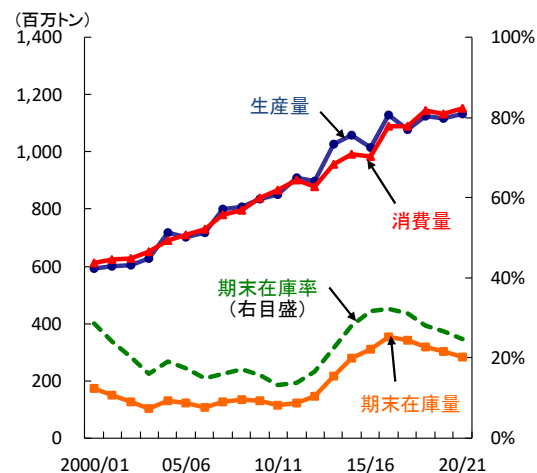
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

- ・中国等で上方修正も、米国等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

- ・米国で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」（2021.1.12）をもとに農林水産省にて作成

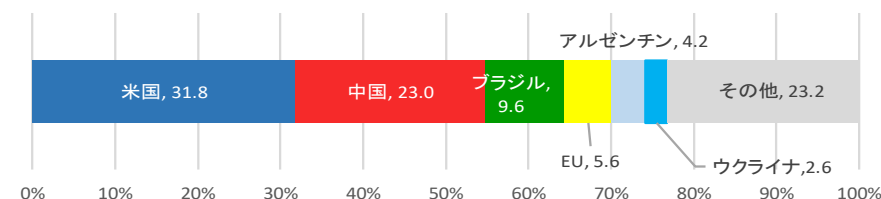
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

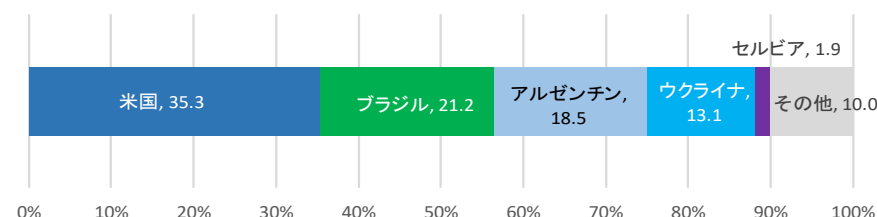
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	1,123.8	1,116.4	1,133.9	▲ 9.7	1.6
消 費 量	1,144.5	1,133.5	1,153.1	▲ 5.0	1.7
うち飼料用	703.6	714.8	725.0	▲ 3.0	1.4
輸 出 量	181.7	170.0	183.6	▲ 2.3	8.0
輸 入 量	164.4	165.2	176.3	▲ 3.3	6.7
期末在庫量	320.0	303.0	283.8	▲ 5.1	▲ 6.3
期末在庫率	28.0%	26.7%	24.6%	▲ 0.3	▲ 2.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 January 2021)

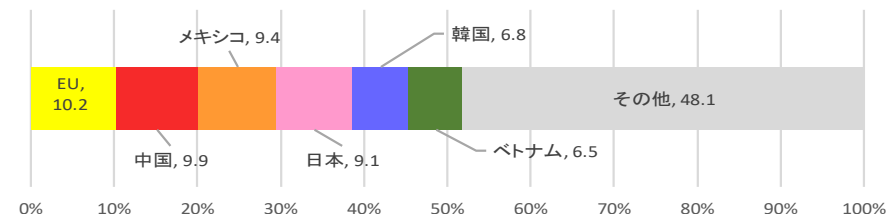
○ 2020/21 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,133.9百万トン) (単位：%)



○ 2020/21 年度 世界のとうもろこしの輸出量(183.6百万トン)



○ 2020/21 年度 世界のとうもろこしの輸入量(176.3百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によれば、2020/21 年度の生産量は、主にミネソタ州、イリノイ州、アイオワ州等の単収の下方修正により前月予測から 8.2 百万トン下方修正されたものの、前年度より 4.1%増の 360.3 百万トンの見込み。前年 11 月末時点で、収穫は例年より早いペースでほぼ終了した。

【需要動向】USDA によれば、2020/21 年度の消費量は、とうもろこし価格の上昇により畜産業の飼料用消費が下方修正された上に、新型コロナ感染の拡大に伴う燃料需要の減少からエタノール用需要も下方修正されたことから、前月予測から 3.8 百万トン下方修正され、前年度より 1.3%減の 305.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2020/21 年度の輸出量は、生産量の下方修正やとうもろこし価格の上昇が飼料コストに敏感な多くの国の輸入需要を抑制させることに伴い、前月予測から 2.5 百万トン下方修正されたものの、前年度より 43.4%増の 64.8 百万トンと史上最高の見込み。中国の家畜の飼養頭数と食肉生産の増加により中国のとうもろこし輸入量が増加することに加え、中国の主要輸入元であるウクライナのとうもろこし生産・輸出量が高温乾燥により大幅に減少することが増加の背景である。

なお、輸出検証高(2020 年 1 月 2 日～12 月 31 日)は、48.9 百万トンであり、内訳はメキシコ(13.8 百万トン)、日本(10.1 百万トン)、中国(7.1 百万トン)、コロンビア(5.0 百万トン)の順である。なお、12 月の輸出検証高では、計 4.0 百万トンのうち、中国が 1.5 百万トンと第 1 位の輸出先となっている。

とうもろこし－米国

(単位：百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	364.3	346.0	360.3	▲ 8.2	4.1
消費量	310.5	309.5	305.5	▲ 3.8	▲ 1.3
うち飼料用	137.9	149.9	143.5	▲ 1.3	▲ 4.3
エタノール用等	136.6	123.2	125.7	▲ 2.5	2.0
輸 出 量	52.5	45.2	64.8	▲ 2.5	43.4
輸 入 量	0.7	1.1	0.6	-	▲ 39.6
期末在庫量	56.4	48.8	39.4	▲ 3.8	▲ 19.2
期末在庫率	15.5%	13.7%	10.6%	▲ 0.8	▲ 3.1

(参考)

収穫面積(百万ha)	32.89	32.92	33.37	▲ 0.03	1.4
単収(t/ha)	11.07	10.51	10.79	▲ 0.24	2.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2021)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前年10月から11月にかけての南部のリオグランデドスル州とサンタカタリーナ州の一部での乾燥による夏とうもろこしの単収の下方修正に伴い前月予測から1.0百万トン下方修正されたものの、前年度より6.9%増の109.0百万トンとなり、史上最高の見込み。なお、国内のとうもろこし価格が高いため、冬とうもろこしの作付面積は拡大が予想されている。

1月上旬から中旬にかけてブラジル中部及び南部の大半の主産地で降雨があり、大豆を始めとする主な夏作物が必要とする適量の土壌水分量が保たれた。しかし、南部の一部では乾燥が続く、より多くの降水量が必要とされている。南部のリオグランデドスル州では、1月14日現在で夏とうもろこしの15%が収穫、24%が成熟している。中西部の冬とうもろこしの作付けは、1月中旬以降本格化する。ラニーニャ現象に伴う降雨のばらつきについて今後も注視が必要。

なお、ブラジル食料供給公社(CONAB)月例報告(2021.1.13)によれば、現在生育期の2020/21年度の夏とうもろこしの生産量は、乾燥による作付け遅延の影響もあり、作付面積、単収ともに前年度より減少することから前年度比6.9%減の23.9百万トンの見込み。一方、大豆収穫後に作付けされる冬とうもろこしの生産量は78.4百万トンが見込まれ、合計では前年度比0.2%減の102.3百万トンの見込み。(P.20大豆ーブラジルのクロップカレンダー参照)。

【需給状況】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より2.2%増の70.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より11.4%増の39.0百万トンの見込み。輸出シェアは世界第2位を維持。(図参照)。一方、輸入量は1.5百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2020年1～12月の累計輸出量は34.6百万トンで、前年度と比べ19%減となっている。内訳は、1位がイランで4.4百万トン、2位が日本で4.3百万トン、3位がベトナムで3.8百万トンとなっている。

とうもろこしーブラジル

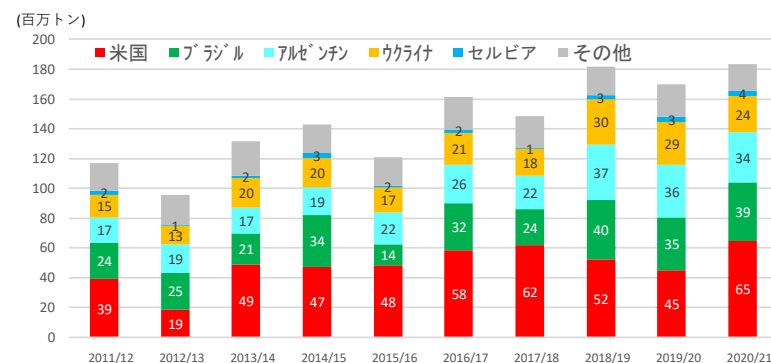
(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが3/4を占め、夏とうもろこしは1/4)

(単位: 百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、() はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	101.0	102.0	109.0	(105.8)	▲ 1.0	6.9
消 費 量	67.0	68.5	70.0	(72.4)	-	2.2
うち飼料用	57.0	58.5	60.0	(53.5)	-	2.6
輸 出 量	39.7	35.0	39.0	(35.0)	-	11.4
輸 入 量	1.7	1.2	1.5	(1.0)	-	25.0
期末在庫量	5.3	5.0	6.5	(6.0)	▲ 1.0	30.1
期末在庫率	5.0%	4.8%	6.0%	(5.6%)	▲ 0.9	1.1
(参考)						
収穫面積(百万ha)	17.50	18.50	19.50	(19.70)	-	5.4
単収(t/ha)	5.77	5.51	5.59	(5.37)	▲ 0.05	1.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2021)
IGC 「Grain Market Report」(14 January 2021)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移



資料: USDA 「PS&D」 (2021.1.12) のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDA によれば、2020/21 年度の生産量は、ラニーニャ現象による前年 12 月の主産地コルドバ州西部、サンタフェ州南部、ブエノスアイレス州北部での乾燥天候のため、早期に植えられたとうもろこしの単収が下方修正されたことから、前月予測から 1.5 百万トン下方修正され、前年度より 6.9%減の 47.5 百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所（2021. 1. 21）によれば、作付進捗率は 93%で、過去 5 か年平均より 1 ポイント遅い。最近の降雨により主産地の北部で特に進展し、土壌水分の状況が改善した。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2020/21 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 4.2%減の 34.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2020 年 1～11 月の輸出量は 36.0 百万トンで、前年同期より 5.1%増。内訳は、1 位がベトナム 7.8 百万トン、2 位がエジプト 3.7 百万トン、3 位がアルジェリア 3.2 百万トン。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7%から 12%へ引き上げた。その後、アルゼンチン政府は、国内のとうもろこしの価格の上昇から畜産向け飼料供給を確保するため、2020 年 12 月 30 日、2021 年 2 月 28 日までとうもろこし輸出を停止すると発表した。しかし、国内の農家団体等からの強い抗議行動を受けて、アルゼンチン政府は 1 月 11 日に 1 日当たり 3 万トンの制限付きで輸出を再開する旨発表した。抗議行動は収まらなかった。結局、1 月 12 日には当初 12 月末に発表した輸出停止措置そのものを撤回したが、輸出税は継続している。

とうもろこしーアルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	51.0	51.0	47.5 (52.0)	▲ 1.5	▲ 6.9
消 費 量	13.8	13.5	15.0 (21.3)	-	11.1
うち飼料用	9.7	9.5	11.0 (16.7)	-	15.8
輸 出 量	37.2	35.5	34.0 (32.5)	-	▲ 4.2
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	2.4	4.4	2.9 (3.6)	-	▲ 34.1
期末在庫率	4.6%	8.9%	5.9% (6.7%)	-	▲ 3.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	6.10	6.30	6.10 (7.40)	-	▲ 3.2
単収(t/ha)	8.36	8.10	7.79 (7.03)	▲ 0.24	▲ 3.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2021)
IGC 「Grain Market Report」(14 January 2021)

写真：北部サンタフェ州のとうもろこし圃場の風景
(1月3日撮影)
登熟期に入っており、収穫は3月前半の予定



< 中国 >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、中国国家统计局データに基づき前月予測から0.7百万トン上方修正され、前年度より0.0%減の260.7百万トンの見込み。前年11月上旬時点で、全土のとうもろこしの収穫はすでに終了。

【需給状況】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、家畜の飼養頭数と食肉生産の増加から飼料用消費量が前月予測から1.5百万トン上方修正され、前年度より3.2%増の287.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】

USDAによれば、2020/21年度の輸入量は、国内の家畜の飼養頭数と食肉生産量の増加により飼料用消費が旺盛なことや国内とうもろこし価格の上昇から、前月予測から1.0百万トン上方修正され、前年度より130.3%増の17.5百万トンで史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2020年1～11月の輸入量は9.0百万トンで、前年同期の2.2倍。従来からの輸入先であるウクライナ産5.2百万トン（58%）が依然として最も多いが、ウクライナ産とうもろこしの高温乾燥による減産と旺盛な飼料用需要もあり、米国産が3.3百万トン（36%）と前年8月以降急激にシェアを伸ばしている。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報12月号」によると、12月の国内流通価格は、買付企業が値上がりを期待して売り惜しむ一方、加工企業が春節前の在庫確保のため買い付けを急いだことから、2,680元/トンとさらに上昇し、高値で推移している。また、外国産との内外価格差は拡大している。

とうもろこし—中国

(単位: 百万トン)

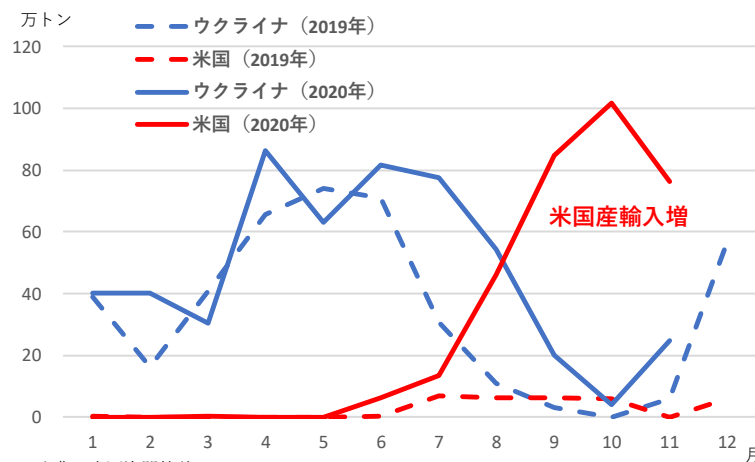
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	257.2	260.8	260.7 (260.7)	0.7	▲ 0.0
消 費 量	274.0	278.0	287.0 (288.7)	1.5	3.2
うち飼料用	191.0	193.0	200.0 (184.0)	1.5	3.6
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	100.0
輸 入 量	4.5	7.6	17.5 (15.0)	1.0	130.3
期末在庫量	210.2	200.5	191.7 (178.8)	0.2	▲ 4.4
期末在庫率	76.7%	72.1%	66.8% (61.9%)	▲ 0.3	▲ 5.3

(参考)

収穫面積(百万ha)	42.13	41.28	41.26 (41.50)	▲ 0.74	▲ 0.0
単収(t/ha)	6.10	6.32	6.32 (6.28)	0.13	-

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2021)
IGC 「Grain Market Report」(14 January 2021)

図：中国におけるウクライナ・米国産とうもろこしの輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分